

「聖教類研究会」活動報告

文責 佐竹隆信

本研究会は、川崎大師教学研究所が所蔵する聖教の整理、並びにその研究を目的とし、平成 27 年に発足した。

研究会のメンバーは以下の通り。

- ・川崎大師教学研究所元所長 福田亮成（研究会代表）
- ・川崎大師教学研究所研究員 駒井信勝
- ・川崎大師教学研究所研究員 別所弘淳
- ・川崎大師教学研究所研究員 鈴木晋雄
- ・川崎大師平間寺教学課課員 佐竹隆信

本年（令和 6 年）は、前年に引き続き義剛（?～1715）撰『釈論打集類聚』をテキストとして、翻刻・書き下し作業の完成を目指した。しかし同時に活動している「『菩提心論抄』研究会」の開催に伴い、本研究会の日程調整が困難となり本年は未開催となった（駒井信勝研究員以下 4 名が「『菩提心論抄』研究会」に参加中）。

『羯磨文談義』研究会」活動報告

文責 佐竹隆信

本研究会は、『羯磨文談義』の研究を目的として、平成 29 年に発足した。

研究会のメンバーは以下の通り。

- ・川崎大師教学研究所研究員・大正大学非常勤講師 別所弘淳
(研究会代表)
- ・大正大学名誉教授 苫米地誠一
- ・京都大学白眉センター特定准教授 大谷由香
- ・川崎大師平間寺教学課課員 佐竹隆信
- ・大正大学大学院博士後期課程満期退学 荒谷友美(旧姓:池田)

昨年に引き続き、本研究会では大正大学図書館所蔵本(旧平等心王院所蔵本)を底本とし、西大寺所蔵本、川崎大師教学研究所所蔵本(旧新大仏寺所蔵本)、現光寺所蔵本(真言宗智山派:京都・木津川市)を対校本として、翻刻・校訂作業を進めている。現在は「ZOOM」によるオンライン形式の研究会を導入しており、毎月 1 回程度の定期的な開催が可能となっている。

本年(令和 6 年)は『羯磨文談義』翻刻本文の校訂作業を終了し、引き続き川崎大師教学研究所所蔵本の巻頭に付された戒脈図の翻刻、並びに校訂作業を進めている。

また校訂作業が完了した段階で、成果報告として『川崎大師教学研究所紀要』への諸本の紹介と翻刻・校訂本文の投稿を予定している。また合わせて内容の検討、訓読・加註作業を進めていくことを考えている。

今後もオンライン形式を中心として定期的に研究会を開き、より一層の研究進展に努めたい。

『菩提心論抄』研究会」活動報告

文責 別所弘淳

本研究会では、平安時代末期に遡ると推定される『(仮称) 菩提心論抄』(川崎大師教学研究所蔵本、旧龍谷大学教授・禿氏祐祥氏所蔵本)の翻刻および訓読文を作成することを目的として、令和3年に発足した。

研究会のメンバーは以下の通り。

- ・川崎大師教学研究所教授 佐々木大樹
- ・大正大学非常勤講師 小宮俊海
- ・川崎大師教学研究所研究員 駒井信勝
- ・川崎大師教学研究所研究員 別所弘淳
- ・川崎大師教学研究所研究員 鈴木雄太
- ・川崎大師平間寺教学課課員 佐竹隆信

『菩提心論抄』は、不読段とされる『菩提心論』の「三摩地段」のみを註釈する著作である。他の『菩提心論』註釈書には、不読段であることを理由に「三摩地段」の註釈を省略するものも多くあるため、『菩提心論抄』の読解を通して、日本において「三摩地段」がどのように理解されてきたのかということを知る手掛かりとなるのではないかと期待される。

また、『菩提心論抄』には、五大院安然撰『真言宗教時義』、ならびに『胎蔵金剛菩提心義略問答鈔』が多く引用されている。しかし、弘法大師空海を「高祖」と尊称していることから、『菩提心論抄』の撰者は東密に近い学匠だったのではないかと推測される。

したがって、当時の東密において台密学匠の学説がいかに受容されていたのかということについても明らかにすることもできるのではないかと期待される。

本研究会では、各メンバーが約10丁を分担して翻刻・訓読文を作成し、対面・オンラインを併用しておおよそ月1回のペースで研究会を開催している。令和6年度は、8回の研究会を行い、全57丁のうち31丁までの読解が完了した。